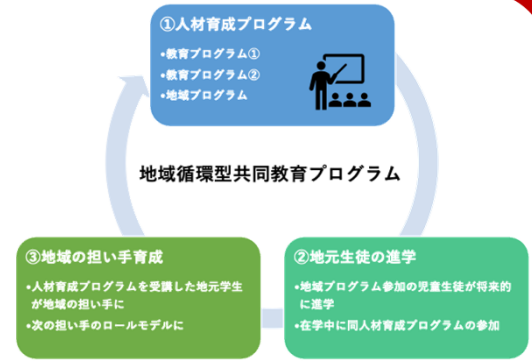


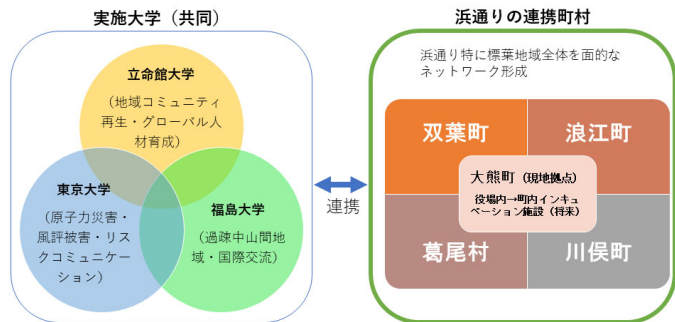
立命館大学・東京大学・福島大学 人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の 循環型共同教育の実践

1. 事業概要

本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災および原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域でのフィールド教育、また地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村等の標葉地域を中心に実践する。



2. 市町村との連携体制の構築及び5年間の人材育成目標



「地域循環型人材育成」とは、持続的な教育プログラムを実施することにより、教育プログラムの修得者が将来の人材育成の担い手として地域人材に成長することを想定したものである。原子力災害によって生じた課題においては「解」のない問いを持ち続け、多面的・複眼的に物事をとらえ「最適解」を導き出すような教育プログラムの実施が必要である。これは課題先進地域と言われるふくしまをフィールドにすることにより、将来の日本の様々な地域課題を解決する人材の育成にも寄与できる。正課・正課外・地域と3つのプログラムを実施し、そこに参加した児童・生徒および住民が、3大学に進学をすることをめざす。なおこれによって入学した地元学生については、本事業における人材育成プログラムの履修をすることにより、在学中も福島県の地域課題について学術的見地から探求をすることができる。将来は、こうした学生が地元の担い手となり、さらには次の人材育成のロールモデルとしてプログラムにおける地元講師などを務めることをめざし、地域が循環して人を育てつつ自走していく仕組みを構築する。

<人材育成プログラム>
人文科学の見地から原子力災害から地域再生を担う人材育成プログラムの展開

教育プログラム①（正課教育）
教育プログラム②（正課外教育）
地域プログラム（地域における生涯学習・レカレント）

【目標】 これからの浜通りおよび日本の地域再生を担う人材の育成

3. 今年度までの活動内容と課題

教育部生（学部生相当）向けの「メディア・ジャーナリズム研究指導」や大学院生向けの「原子力災害論」などにおいて、正規カリキュラムを事前学習として実施。また浪江町・大熊町・双葉町などの双葉郡において、学生を対象とした現地フィールドワーク型の実習を実施。本教育プログラムにおいては、福島県内の施設や人が現状、誰に何を伝えようとしているのかを学び、「人に災害の経験を伝える」ということを考える。2021年度は11月18日から21日までの4日間の1回実施し、道の駅なみえ、請戸小学校ならびに大平山霊園などを訪問。2022年度は9月に実施予定。



一部の学生交流協定校より短期留学生を招き、福島県の各地域に赴き、地域住民や学生等との交流を中心としたフィールドワークプログラムを行う。世界で誤解されやすい福島に関連するトピックを英語で解説し、異文化・日本文化を大熊町を通して体験。また、葛尾村では2021年度に集落全戸調査を実施。現在の集落の機能、社会関係資本、住民生活の現状とこれからの意向の把握を目指した。



浪江町・大熊町・双葉町などの双葉郡の住民による講演を事前学習として実施。現地フィールドワーク型の実習では、請戸小学校ならびに大平山霊園、双葉町駅前、帰還困難を訪問。現地で暮らす住民や現場職員、立命館大学の卒業生との交流を通じて現地に暮らす人々の思いを聴く。2021年度は11月18日から21日と12月3日から12月5日、2022年度は8月24日から26日まで実施。秋以降は「地域魅力マップづくり」「廃炉処理水勉強」「防災キャンプ」などをテーマにしたグループ活動や学園祭や校友会での活動発信を実施予定。



正課教育としての教育プログラムの実施（東京大学）

正課教育としての教育プログラムの実施（福島大学）

正課外の教育プログラムの実施（立命館大学）

今後の課題

●三大学合同の正課科目の実施
→ 立命館大学で申請予定

4. 3年目の事業内容及び取組の方向性

三大学連携によるプログラムの体系化

プログラムの展開による正課科目の単位化

地域と連携した循環型教育の具体化